

2023年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園
藤幼稚園・藤保育園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	31.4%	68.6%	0%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	20.0%	80.0%	0%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	19.0%	81.0%	0%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	12.9%	80.6%	6.5%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成する	22.6%	74.2%	3.2%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	29.0%	71.0%	0%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境を構成する	22.6%	71.0%	6.5%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	25.7%	74.3%	0%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「園の教育方針等の理解」では、「よく出来ている」（以下、「A評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B評価」という。）「あまり出来ていない」（以下、「C評価」という。）「出来ていない」（以下、「D評価」という。）のうち、「A評価」「B評価」の合計は、100%となりA評価の割合が前年の20.6%から31.4%へ増加した。

「教育課程の編成」でも、「A評価」と「B評価」を合わせて100%となり、A評価の割合が前年の4%から20%へ増加した。更に「指導計画の作成」でも、「A評価」と「B評価」を合わせて100%となり、A評価の割合が前年の0%から19%へ増加した。以上の3項目は、いずれも前年より「A評価」の割合が増加しており、その要因として前年度から教育課程の編成と指導計画の重要性を改めて意識し取り組み始めたことが、教職員に定着し始めていることが窺える。

「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は、「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は96.0%となり、前年より1.6%減少したものの、「A評価」の割合は前年の7.3%から21.8%へ増加した。環境を通して教育・保育を行うことの重要性の理解が深まっている結果となった。

「評価・反省」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて3年連続で100%となった上に、A評価の割合が前

年度の9.1%から25.7%へ増加した。全ての教職員が、自らの保育を評価・反省し、次の保育に生かし改善に努めようとしていることが窺える。

保育の計画性においては、全ての項目で前年度より「A評価」の割合が大きく増加しており、教育課程に基づき、幼児の発達に即して幼児期に相応しい生活を展開できるよう、具体的に指導計画を立てた上で環境を整えることの重要性が教職員全体に浸透し始めたことが窺える。全ての教職員が、「A評価」「B評価」となり「A評価」の割合が更に高くなっていくよう、引き続き注力していきたい。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	27.8%	69.4%	2.8%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	27.8%	72.2%	0%	0%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	25.7%	74.3%	0%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	25.0%	72.2%	2.8%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	17.1%	77.1%	5.7%	0%
指導と関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	45.7%	54.3%	0%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	55.6%	41.7%	2.8%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	25.7%	74.3%	0%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	42.9%	57.1%	0%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	44.4%	52.8%	2.8%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	30.6%	66.7%	2.8%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「健康と安全への配慮」の項目では、前年とほぼ同様の結果となる中で、前年度より「A評価」の割合が3.2%増加した。ヒヤリハット、事故報告を受けての改善を意識し、更に「A評価」の割合が高くなるよう今後も徹底していきたい。

「幼児理解」では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均99.1%であり、前年度より2.3%増加し「A評価」の

割合も平均で6.8%増加した。3年前から取り組んでいる幼稚園舎の「ドキュメンテーション」と保育園舎の「ラーニングストーリー」を手段とし、個々の幼児の発達の姿や課題、幼児同士の関わりの姿について振り返ることで幼児理解を深めていることが窺える。引き続き、全ての教職員が幼児一人一人の育ちを理解する力と課題について見通しをもって対応する力を高めていけるよう、今後も取組を継続していく。

「指導と関わり」の項目では、年々「A評価」の割合が増加してきており、幼児同士のトラブルに対し適切な対応を心掛けることについては、前年より「A評価」の割合が18.7%増加した。前年度に不適切保育について研修を実施したことが、より良い関わりについて改めて考える機会となり、その後も、一人一人の子どもに丁寧に関わろうとしている職員の意識が継続し全体に浸透してきていることが窺える。一方で、幼児理解のために“手段”として取り入れている「ドキュメンテーション」「ラーニングストーリー」が“目的”になってしまっていたり、繁忙期や行事の際に負担を感じているところもある。改めて、「ドキュメンテーション」「ラーニングストーリー」に取り組む“目的”を確認するとともに、繁忙期や行事の期間における業務分担を職員全体で検討していく必要がある。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、前年度とほぼ同様の結果となる中で、クラスに関係なくその場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするよう心掛けるについては、「A評価」の割合が前年度より11.1%増加しており、幼児のことについて保育者同士で話し合い共通理解を図るについては、「A評価」の割合が前年度より2.7%減少となった。クラスに関係なく園全体で子どもに対応する意識が年々高まってきていることが窺える一方で、様々な業務に対応する中で保育者同士が話し合える時間を確保することに困難さを感じているため、保育者同士が話し合える時間を確保する手立てを考えていきたい。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	47.1%	47.1%	5.9%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	34.3%	65.7%	0%	0%
要望等への対処の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	21.2%	78.8%	0%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「情報の発信と受信」では、前年度より「A評価」の割合が10.4%増加し、保護者の皆さんからの相談や要望に丁寧に対応しようとしていることが窺える。一方で「C評価」もあり、業務の繁忙期に適切な対応ができていないと感じている。情報発信のタイミングと内容を精査し、より良い発信に繋げていきたい。「対応上の心がまえ」及び「要望等への対処の仕方」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計で100%となり、割合は前年とほぼ同様であった。お迎え時に対応したり電話対応したりコドモの連絡機能を使ってお伝えするなど、保護者の皆さんの状況に応じて対応しようとして心掛けていることが窺える。今後も引き続き、保護者の皆さんに丁寧な対応を心掛け、「A評価」の割合を高めていきたい。

IV 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	16.7%	70.8%	12.5%	0%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	0%	80.0%	20.0%	0%
子育て支援と地域への開放	保護者及び未就園家庭の子育ての支援や地域への開放に努めている	20.0%	50.0%	30.0%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計は、前年度より15.5%増加した。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類から5類へと移行し、保育園舎では園外にある公園に出掛けた際に地域の方々と触れ合ったり自然を感じたりする機会が多く持てたと感じている。園庭で野菜を栽培し収穫後に試食を行う機会をこれまで以上に多く取り入れたが、今後も年度計画に組み入れ継続していきたい。探検の森については、魅力を感じ出掛けているクラスがある一方で、猛暑や行事により出掛ける機会を逸してしまい、多くのクラスが思うように活用できていないと感じている。探検の森の活用について、しっかり話し合いもっともっと探検の森に出掛けていきたい。

昨年はコロナ禍の影響により実施できなかった「小学校との連携」については、次年度から津市全域で取り組むことになる『乳幼児期から小学校への連続した学び～津市の架け橋プログラム～』について、豊が丘・高野尾・大里小学校さんと大里保育園さんならびに本園と豊里中学校区にある保幼小が、一年早く交流を開始した。次年度から、架け橋プログラムを通じて職員同士の学びが深まることを期待している。3学期には豊が丘小学校さんの1年生の授業を年長児と担任が見学できた。

「子育て支援と地域への開放」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計が前年より5%低下し、「C評価」の割合が前年より5%増加した。子育て支援は、認定こども園の役割の一つであり、昨年度から保護者の子育て支援を加えたが、この項目で評価を意識した職員が限定的であった。年々、保護者への子育て支援の必要性が増しており、全ての職員が保護者の子育て支援について意識を持ち、「A評価」と「B評価」の割合を高めていけるよう取り組んでいきたい。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	17.2%	65.5%	17.2%	0%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	21.9%	56.3%	21.9%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「研修・研究への意欲・態度」では、「A評価」の割合は前年度より10.1%増加したが、「B評価」との合計では前年度より0.6%低下した。また、「C評価」は前年より6.5%増加し「D評価」は昨年度の7.1%から0%へ低下し

た。処遇改善とともに求められる研修受講にあたり、オンラインで実施する15時間のキャリアアップ研修に延べ19名の職員が参加した。また、園内研修では、“丁寧なかかわりの保育”を実践するため「子ども理解」を一年間のテーマにして、毎月エピソード記録を基に子どもの発達や興味について理解を深める研修を行った。園外研修にも積極的に参加してきたが、これらの研修の一つ一つが自らの学びに繋がると感じており、研修への意欲は向上していることが窺える。本園の職員であれば誰でもどこでもいつでも受講できるコドモンカレッジの研修も周知し、更に「A評価」の割合が高まり職員の資質の向上に繋がるよう活用していきたい。

「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには、「A評価」の割合は前年より5.2%増加しているものの「B評価」との合計は前年度より8.5%低下し、「C評価」が増加した。昨年引き続き、「A評価」と「B評価」合計の割合が低下していることを重く受け止める。「C評価」の職員への聴き取りを行うとともに、全ての職員が何でも相談できる機会を整える必要がある。

2023年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

I 保育の計画性

指導計画の作成

- ・年間計画や、毎月の計画を立て、保育を進めることにより、子ども達にどのように育てあってほしいか、など見通しを持って保育を進めていくことができ良かった。
- ・子どもの月齢に応じて計画を立て、個人が自分に合った遊びを展開できるように環境を整えている。
- ・日々の保育の反省点をその都度保育者同士で話し合っって次に生かしている。
- ・年間を見通してこの時期にはこうしていきたいとあらかじめ計画を立て、クラスの職員間でも話し合い、子どもたちの姿と照らし合わせて進めていけたことは良かった。
- ・月ごとに計画をたてることで、日々の保育の見通しをもって進めていくことができた。
- ・遊びや歌など、みんなで相談して計画を立てながら、保育に取り入れていくことができた。
- ・計画をたてたが、行事や子どもの対応に追われて、計画通り進められないこともあったり、計画をしたことによって、計画に縛られてしまうこともあったので臨機応変にしていきたい。
- ・補助の保育者にアドバイスをもらいながら、余裕をもった保育を心掛けた。
- ・毎日の保育にあたって、一日の計画を立てることで充実した内容の保育が出来たと思う。
- ・この時期にどんなことを経験させたいのか、一緒に楽しみたいのかを考えて保育計画を立てて月案にあげていった。準備はあらかじめしているつもりではいたが、子どもの様子や姿が思っていたのと違うなど急遽変更がある事があり、その対応が少し遅れたりすることがあった。どんな時も臨機応変に対応できるように万全の準備が必要だと感じた。
- ・学年会を行うことで、保育の方向性を学年間で共通理解することができた。
- ・初めて担当する年齢のクラスで日々の活動、行事に戸惑うこともあったが、クラス・子どもの成長、特性に合わせた計画を担任間で話し合いながら進めることができたと思う。
- ・学年全体では担任同士コミュニケーションを頻繁に取りながら先を見通して計画を進めていけたと思う。
- ・学年での連携が上手くとれていたように思う。引き続き、報告・連絡・相談を密にしていく。子どもたちの興味や関心のあるものや発想やつぶやきを聞き逃さずそれらを遊びにつなげていけるように計画を立てていく。

環境の構成

- ・日々楽しく遊べるように子ども達の遊びに目を向け玩具を変えたり教材を用意したり環境設定に取り組んだ。しかし、担任と話し合ったり一緒に環境設定を作っていく時間が少なく、もっとできる部分はあると思う。
- ・危険のない室内遊びのコーナーをいくつか準備し、その日の子ども達の様子にも配慮し見守りはもちろん一緒に参加しながら共感したり手助けしたり危険な遊び方への声掛けや注意を促すことなど、落

ち着いて楽しく過ごす環境づくりに努めた。

- ・週毎に天気等を考慮して遊びの予定を考え準備するようにしている。家庭での準備になるのでできないときもあるが、上手く時間を作りたい。
- ・子ども達が今日は何をして遊びたいかを子ども達の様子や前日との繋がりを考え準備するように心掛けてきた。
- ・子ども達が遊ぶ玩具などの環境作りをもっとした方が・・・と思ったが、日々お便りやストーリー、制作物の準備などで時間に追われ、なかなか作る時間が持てなかった。子ども達が午睡をしている時間など、職員同士仕事を分担し、効率よく時間を使えるようにしていきたい。
- ・保育室の環境は、子ども達の一日の生活導線などをしっかり考え、また4月からの発達段階に合わせて整えたり考えたり、もっとしていてもよかったのではと反省する。月に一度、改めて保育室の環境などこれでよいのか、など担任同士で話し合ってもよいかもしれない。
- ・初めて担当する年齢で日々の保育に精一杯だった。今後は先回りして計画したり環境を整えたりしていきたい。
- ・未満児を久しぶりに担当するということで、もう一度それぞれの学年の発達や姿を見直し、進めてきた。また、一人一人の成長や姿、性格を捉えた保育を大切にしてきた。その子にとって、今まで積み上げてきたもの、これから吸収するもの、すべてが繋がった保育になることを意識して、来年度も保育していきたい。また、保育の進め方や環境構成等、クラスの先生たちと協力しながら進められたので、それぞれの思いを出し合った保育ができたように思う。
- ・子どもの「やってみたい」「明日も続きがしたい」等、それぞれの興味関心、その年齢や時期に合ったことを柔軟に取り入れながら限られた場面ではあるが工夫した。
- ・運動会の練習を無理なく、遊びの中から進めていくことができたのは良かったと思う。また、クラスの様子を見ながら、補助の先生と一緒に力を合わせて保育を行っていたのは良かったし、一人一人の成長を身近に感じることもできたので良かったと思う。ただ、保育当番などの業務もあり、学年で集まって話をする機会が少なかったり、ドキュメンテーションの作成にあてる時間が少なかったため、その点を見直していく必要があると感じる。
- ・一日の保育の流れを主になる先生に聞き、環境を整えたり準備物を早めに用意するように努めることができた。
- ・前日まで子どもたちとのコミュニケーションやあそびの流れを考えて、環境設定や準備を心がけたが、準備不足の時もあり、いつでも子どもたちが自分のやりたい好きなあそびをやりたい時にすぐできる環境を整えられるようにしていきたい。
- ・環境の設定などは、常にクラスで話し合いながら構成することができたと思います。
- ・季節にあった遊びの準備や、それぞれの好きな遊びを考慮して環境を整えるようにしてきた。
- ・行事や日々の突然のカリキュラム変更にも追われ、余裕が無くバタバタとする事が多くあった。
- ・個別の支援計画の作成により、担任と担当児についての共通理解を深めることで、連携を取りながら保育していったのが良かった。話し合う時間を設ける事で、日々の保育を見直し、より良い環境を整えられるのではないかなと思う。

評価・反省

- ・加配児の指導計画を立てることで発達段階を踏まえて今後の課題等を確認しながら、適切な援助をでき

るよう心掛けることができた。同じ場面でも、昨日は良かったが、今日は気持ちの切り替えができなかった、というように日によって子どもの様子が違うことに対して臨機応変に対応できなかったので、様々なパターンを考えて対応できるようにしていきたい。

- ・計画を立てていたが、なかなか思い通りに進めていけないこともあり、反省する。子どもたちにとって、無理なく楽しんで自らやってみよう！と、思えるような保育計画を立てていくよう改善したい。
- ・3回目の年長児の担任ということで、流れを少し理解してきたこと、そして持ち上がり子ども達でわかっていることもあったので、見通しをもって保育することができた。しかし、過去の経験をもとに環境を設定したり遊びを考えたりしたが、過去のクラスの子と今のクラスの子どもに合う部分と合わない部分がある。1学期末ぐらいに改めて考え直すことになった。そこで、過去の経験も大事しながら、やはり第一に目の前の子どもの成長について考える機会となった。
- ・今年度、学年会でそれぞれの先生の思いや学年としての方向性を出し合うことで、次の月への繋がりができ、方向性が見えやすかった。それぞれの先生の考えやクラスの子どもたちの様子からそれぞれのクラス運営もあるが、学年としての方向性も見えたと思う。
- ・今、子ども達が何を楽しんでいるか、どういうものなら楽しめるかを考えて保育をしている。それでもどうしたらいいか悩む時もたくさんあるが、他の先生の保育を見たり、相談したりすることで乗り越えられていると感じる。
- ・楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成することを心掛けた。子ども一人一人の思いを大切に、指導計画も発達に即して、ふさわしい生活を展開できるように作成した。作成をもとに保育をしていたつもりだが、振り返ることを忘れがちなので、振り返って、次の保育にいかしていきたい。
- ・保育の振り返りを行う事で、日々の保育の見直しや計画をたてることができた。
- ・学年会を月に1回設定することで、エピソードを出し合い子どもの姿の捉え方や大事にすべきことなどについて、担任の先生方と話し合うことができた。
- ・主に園庭やテラスなどの環境について、工夫できないことも多かったため、畑やプランターの栽培は年間で計画を立てて行うようにしたい。

II 保育のあり方、幼児への対応について

健康と安全への配慮

- ・感染症が流行る中、園内の掃除、換気、室温などに気を配った。

幼児理解／指導と関わり

- ・ニュースや研修で対応の仕方の大切さを日々感じているので、言葉掛けには十分気を付けている。一人一人に応じた対応、ゆっくりと子どもと関わることを心掛け、日々保育していく。
- ・保育や遊びの中で幼児の目線になり一緒に活動することで様々な子どもの思いに気付くことができた。一つの物事に対して子ども達それぞれの思いがあり、“楽しい”“得意”と思っている子、“少し苦手”と思っている子等一人一人に合った言葉掛けについてもっと勉強していきたい。
- ・一人一人を認め丁寧に関わることで不安をなくし、信頼関係ができてくると自分の気持ちを保育者に伝えられるようになった。そして、自信が持てたことでみんなの前で発言したり困った時も自ら伝える事ができるようになり、友だちとの関わりにも相手を思いやる優しさが育ってきたと思う。

- ・個々に合わせた言葉掛けや接し方を心掛け実行するようにしている。より良い言葉掛けや接し方をできるよう努めていきたい。
- ・子ども達同士で解決しようとしていることには、しばらく見守りタイミングを見て言葉掛けをし解決できるように心掛けてきた。
- ・特定の子のおもちゃを取ったり壊したり落ち着かない子から話を聞こうとするが、なかなか話を聞こうとしないことがあり、一対一でもっと関わっていくべきなのかと思うが、異年齢のたくさん子ども達がいる現状ではどうしていくべきなのかと迷っている。
- ・子どもの話したいと思う気持ちを可能な限り受け止めてよく聞くようにし、スキンシップを取って安心できるように心掛けた。子ども同士のトラブルについては、怪我のないように気を付け両者の言い分をよく聞いて気持ちを汲み取り対応できるようにしたい。
- ・毎日、子ども達の思いに共感しながら、関わってよかった。また一生懸命話そうとしている言葉に耳を傾けながら「〇〇なんやな～」など言葉にすると、「うん！」と笑顔でかえってくる場面があり嬉しく思った。抱っこをしたり、膝の上にすわったり等、スキンシップをたっぷりとることができ良かった。
- ・子ども同士のトラブルで、今年度、場所や玩具の取り合いでトラブルになり、子ども同士の噛みつき事故が何度かあった。十分に気を付けているもりでも、起きてしまうことがあったので、子どもの思いに寄り添いながら、一人一人が満足して遊びこめる環境を作っていくように、改善していきたい。
- ・今年度のクラスは、こちらが考えた保育内容に対して良いことも悪いことも素直にわかりやすく反応が返ってくる子どもたちであったため、環境を設定したり新しい遊びを導入したりしてから、反応によって簡単にしたり難しくしたり、試行錯誤をすることができた。また、生活に見通しを持つことで安心する子どもも多くいたため、昨年度までより落ち着いて保育できた。しかし、1学期や運動会や発表会時期になると、自分に余裕がない時に、子どもへの対応が雑になる部分が多くなることが反省点である。
- ・大人の都合（保育の流れ等）ではなく子ども中心という考えを軸に、子どもの思いに耳を傾けることを意識して子どもに関わるようにしていた。イレギュラーな事が発生して慌ただしくなると、どうしても焦ってしまう事も多く、それが子ども達にも伝わって子ども達も落ち着かない様子が見られたので、そういう状況の時こそ落ち着いて関わっていきたい。
- ・みてみてストーリーを実際に書いてみて、今まで以上に、子どもたち一人一人の姿や思い、学びに気づける場面がたくさん増えてきた。一人一人とどう関わっていくかにも大きくつながっている。保護者の方も子どもたちも喜んでいて、これからも続けていく大切なものだなと思う。ただ、ストーリーを書くにあたっての言い回しやルールが細かすぎて、楽しんで書くことができない。子どもたちの個性や可能性を大切にしたい内容をベースにすることを基本に、もっと自由に書けたら、子どもと関わるのがより楽しくなる。お手本のような、完璧な文章にしなくてはいけないのか。子どもたち一人一人に個性があるように、保育者一人一人にも個性がある。その個性が生かされたストーリーになっていないのが現状。幼稚園でしていたドキュメンテーションは保育者の個性溢れる楽しい記録だからこそ、子どもたちのより輝いた姿が表現できていたように思える。また、写真を自然と撮ることは本当に難しい。その間に他の子どもたちは見ることができない。でもストーリーを保護者に渡す以上、少しでもいい写真を撮ってあげたい、ストーリーの内容を濃いものにしたいと思う。その結果、子どもと直接関わる時間がなくなってしまっている。4月こそ、直接一人一人の子どもと関わって信頼関係を作るために、とてもとても大切な時期なのに。毎月ストーリーを書くといったことにこだわらず、この月はストーリーのかたちで

書く、この月は〇〇ちゃんのいろいろな顔！的な内容にするなど、その月の子どもたちの姿や様子に配慮して臨機応変に進めていくべきである。そうしないと楽しい保育も楽しくなくなる。子どもと直接関わっている現場の先生たちが、そういうことを一生懸命声をあげても伝わらないから、どうしたらいいのか。

- ・一人一人のお子さんの気持ちを受け入れ、安心してホームクラスで過ごすように心がけている。英語と日本語の絵本や手遊び歌を取り入れ、少しでも英語に自信を持つように心がけている。
- ・一人一人の思いに共感し、何でも耳を傾け、気持ちを尊重している。
- ・トラブルが起きた時はすぐに報告し合い、振り返って何がトラブルにつながったかを話し合っている。
- ・その時の一人一人の子どもの気持ちを受け止め、じっくり関わることで気持ちが落ち着いたり、次に進むきっかけとなることもあるので、職員間で子ども達の様子を共有しながら対応するようにしている。
- ・自分の気持ちを言葉で伝えることがまだまだ未熟な年齢だが、伝えたい思いや自分のきもちを分かっほしい思いが出てトラブルになってしまうことが多々ある時期なので、その都度丁寧に関わり代弁することで納得して次への関わりに繋げていくようにした。少しずつだが子ども同士の関わりにも変化が感じられるようになりよかった。
- ・1年の中で、主に前半は大きな行事等もなく、一人一人の子どもにじっくりと関わる事ができた。大きな行事に向けての会議や準備、日々の保育の準備や様々な業務が多々あり慌ただしく、じっくりと丁寧に関われないことがあった。保育者が、保育にしっかりと向き合えるよう、また気持ちにゆとりをもって保育ができるような職場環境と業務の軽減ができればと思う。
- ・子どもの気持ちに寄り添い自主性を尊重する保育を心掛け、言葉がけを意識するようになった。
- ・子どもたちがいまどのような育ちがあり、どのような環境を整えることで主体的に考えて遊びを進めていくことができるのかを考えてきた。子どもたち主体の中で、“こんなこともあるよ”という投げかけや提案、刺激などを通して、新たに子どもたちが学ぶこともあったと思う。
- ・子どもたちの話をよく聞いて、子どもたち一人一人の気持ちを受けとめて、一人一人にあった対応ができるように心がけている。
- ・子どもたちが安心して園生活を送ることができるように、たくさんスキンシップをとるようにしている。
- ・子ども一人一人の声を聴くことが大変な時もあったが、寄り添った言葉がけを大切に關われたと思う。
- ・子ども達との会話やスキンシップを大切にしている。友だち同士の関わりもたくさん見られるようになってきたことが嬉しい。その分トラブルは日々起こるが、お互いの気持ちを受け止め代弁し、友達の気持ちに気付いたり、どうしたら良かったのか子ども達と一緒に考えたりするようにしている。
- ・担当クラスの子も達は、まだまだ甘えたい時期なので、子どもの気持ちに寄り添い、スキンシップを大事にした。
- ・子どもの立場を理解しながら、危険のないように見守り、一緒に活動することを心掛けて行動することができたと思います。
- ・今年は、担当する年齢のクラスで友達同士のトラブルでひっかきや噛みつきなど手が出ることで保育中に怪我をさせてしまったことが多く、クラス内や教務の先生とでどうしたらよいかを話し合い環境を少し変えることで噛みつきやひっかきなどが少し減った。
- ・年齢や個々に応じた子どもの成長や育ちなどを理解しようとしながら、保育をすることを心掛けた。

- ・子どもの気持ちに耳を傾け、寄り添える保育を心掛けた。
- ・個々にあった保育、対応を心掛けたが、個性豊かな子ども達と過ごす中で時間に追われることもあったので、今後は一人一人を大切にもっとゆっくり、じっくりと関わられるように工夫をしたい。
- ・子どもとのスキンシップを大切にし、その日の子どもたちの様子をしっかりと見て体調、機嫌などしっかり見るよう心掛けている。
- ・子ども達の興味、関心に耳を傾け、個々の発達段階に合った遊びを一緒に楽しめるように常に考えている。うまく時間を使い、子ども達を巻き込み、一緒に環境を作っていけるように気持ちに余裕を持ちたい。一人一人の子どもに丁寧に関わり、消極的な子どもや自信がない子どもへの対応や、皆がどの様な場面で輝けるか把握できる様努力した。
- ・子ども一人一人の特徴をとらえて、その子にあった関わりをしていくように心がけていった。一人一人が何を考えどのように過ごしているのか、子どもの思いを受け止め、一緒に楽しんだり、一緒に考えたりしながら丁寧に関わっていくことができたと思う。子どもの抱えている問題に対応しきれず、これで良かったのかな・・と感じる事もあったので、担任同士で意見を出しながら協力して工夫していきたい。
- ・子どもたちのまだまだ甘えたいといった気持ちや素振りを見逃さないようにし、満たされた気持ちで安心して園生活を送れるような関わりを大切にしてきたことで、だんだん信頼関係が築けてきたのは良かった。しかし、自分の主観でしていたことなので、対応が間違っていないか客観的な意見を伺うことも必要だったと思う。
- ・子ども一人一人への細やかな対応を心掛け発達や個性など様々な視点から、それぞれに合った援助の工夫をしている。
- ・子どもの気持ちを考え、子どもが自分で前に一歩進もうとするような言葉かけを心がけた。一人一人の子にとって刺激になるものは何なのか、今後も気を付けながら関わりたい。

保育者同士の協力・連携

- ・一人一人の特徴をしっかりと捉えるために、補助の先生と常に話し合いを重ね、同じ気持ちで一人一人の子どもに関わり、その子の成長を見守っていくようにしてきた。3学期に入った今、一人一人の成長をととても感じることもあり、1年間苦労したこともあったが、現在のクラスを担当することができて良かったと思う。今後も他の先生方と協力し合いながら、子ども一人一人の気持ちをしっかりと受け止めた保育を行っていき、一人一人の成長を見届けていきたいと思う。
- ・担任保育者が休みの時に入り、年齢やその子に合った対応を自分で考えたり、保育者に相談しながら保育ができた。
- ・フリーなので、その日に入るクラスの子どもの状態や様子を担任から聞くように心がけて入らせてもらうようにしている。
- ・初めての担当する年齢クラスだったので、対応などに戸惑う時もあったが、その都度、経験のある同僚に相談し解決をしていった。
- ・クラスの保育者同士で、クラスのことや子どものことについて、共通理解を図るように話し合うことを大切にしたい。
- ・限られた時間や場面ではあるが、引き続き意識的に言葉をかけ関わることで関係を築いていきたい。また、子どもや保護者に関わることで気づいた事などは担任と共有していくようにする。

Ⅲ 保護者への対応について

情報の発信と受信／対応上の心がまえ

- ・自身が担当する子以外は、担任に対応してもらっている。保護者と話した内容は、担任に伝え共通理解できるようにしている。
- ・昨年度まで保護者の送迎により通園していたところから、今年度になりバス通園となったので保護者と直接お話する機会が減ってしまったが、嬉しかったことや成長面等についてコドモンを通してお知らせしていきたい。
- ・お迎え時には丁寧な挨拶を心掛け、日々の遊びや生活の様子を伝え保護者の話にも耳を傾け安心して預けてもらえるように信頼関係を深めてきた。
- ・その日の園での様子をできるだけ伝えるようにしている。また、家庭での様子を聞き連携して育ちに関われるよう心掛け実行できたと思う。保護者の思いや考えもしっかり受け止め協力していきたい。
- ・降園時、子ども達の様子をなるべくわかりやすく伝えるようにしてきた。伝え忘れてしまい、その後に電話連絡を入れることもあったので、メモを取り目に付くところに貼ったり、他の職員と共有して伝え忘れのないようにしていきたい。
- ・保護者からの伝言などは、忘れずに正しく担任に伝えるように気を付けた。
- ・保護者の方から、日々の子育てについての悩みなど、話して頂く機会がよくあったが、まずは保護者の方の悩みをしっかり聞き、共感するように心がけた。それだけでも笑顔になられる保護者の方もたくさん見えたので嬉しく思う。自分一人の思いで、悩みに対するアドバイスなどできないので、担任同士で話し合ったことを伝えた。そこで終わりではなく、こまめに様子を聞きながら安心して過ごしてもらえるよう心がけた。
- ・保護者の方となかなかゆっくり話す機会もないが、送迎時のわずかな時間でも、園で楽しんでいたり、面白かったエピソードなどを伝え、保護者の方が話をきいて、ポジティブな気持ちで仕事場へ向かったり、家に帰ったりできる話をするよう心がけていきたい。
- ・2階に保育室があるため、昨年度よりは保護者と会話をする機会が減ってしまった。コドモンでの連絡帳機能の使用も減った。ドキュメンテーション、育ちのストーリーは月1回を目標に配信を続けてきた。子どもによって配信頻度が多少の偏りがあったこと、他のクラスに比べて配信が少なくなってしまったことが反省点である。
- ・笑顔で対応するという一番の心がけ、実践することが出来たので良かった。知識不足や経験不足から自信を持ってない事も多いが、しっかりと情報収集を行い補っていきたい。
- ・その日の子どもの姿や様子を細かく、丁寧に伝えることを意識して関わってきた。また、子どものことだけでなく、何気ない話もしたりして、話しやすい雰囲気を作ることも心がけてきた。保護者からの相談や要望等はすぐに職員同士で共通理解をして、どうしたらいいかみんなで話し合い、できるだけ早く保護者に返せるようにしてきた。引き続き、来年度も子どもとの関わりと同様、保護者とのコミュニケーションも大切にしていきたい。
- ・笑顔で対応するように心がけている。ホームクラスでの様子を必要に応じて保護者に伝えたり、担任の先生にも伝えるようにする。
- ・相談を受けた際は心を寄せ、話をしっかり聞くようにしている。

- ・信頼関係を築けるように、積極的に声をかけている。
- ・早朝保育やバス通園等担任の保育者とあまり会えない保護者の方には、園での様子等を送迎時に伝えるようにした。
- ・子ども達の為に沢山の保護者の方が、手伝いやボランティアに携わっていただいているが、時間の余裕のなさから十分な対応ができていないことを反省する。
- ・保護者の話をしっかり聞き、時には子育てに対する悩みも聞きながら、保護者の方と一緒に一人一人の子どもにとって一番良い方法を考えていくことを心掛けてきた。普段バスを利用しているお子さんの保護者の方とは、なかなか話す機会がなく、園での様子を伝えることの難しさを感じたが、変わった様子があった際には電話などで対応するように心掛けてきた。育ちのストーリーの取り組みについては、学期ごとにその子の成長した姿を見て頂けたと思うが、普段の園の生活の様子を中々作ることができない時期があったので、見直していきたい。
- ・園での子どもの姿からお家での様子や保護者の方の対応の仕方や考え方について何度も話をする機会を持ち、お家でも園でも同じ方向性で対応していくようにすることが出来てよかった。
- ・登園、降園時に挨拶をしたり、その日にあった子どもの様子を伝えるようにして、安心して園に通ってもらえるように努めた。
- ・伝言があったときはメモをして忘れないようにしている。または、他の保育士とその内容を共有して漏れのないように心がけている。
- ・送迎の時や、毎日の連絡帳などで、保護者に家庭の様子を聞いたり園での姿を伝えたりして、その都度対応をしてきた。
- ・行事の準備が差し迫ってきたり、保育業務に追われたりして、ゆっくりと話す時間を作れないことがあった。保護者と話す時間を作ったり、丁寧に対応していくよう心掛けたい。
- ・信頼関係を深められた保護者とコミュニケーション不足の保護者がいたことが残念だった。子育ての悩みなどに応えられたのかと反省点が残る。
- ・日々の子どもたちの成長を保護者の方々に知らせたり、家庭で困っていること、悩んでいることを聞いたり、子どもの変化から子どもを理解しようとしてきた。今後も、話し合いを密にし、子ども達の環境を良くしていきたいと思う。
- ・保護者の方の話は、しっかりと聞き、丁寧に対応してこれたと思う。今後も保護者の方が安心して、お子さんと一緒に楽しく園に通っていただけるように丁寧に対応していきたい。
- ・保護者の皆さんは、自分よりも年齢が上の方ばかりなので、話すときの言葉遣いなど失礼のないような関わりを心掛けた。日々の子どもの様子を伝えられたと思う。
- ・担当する年齢児は毎日連絡帳を書くことがないため、直接伝えられる時にはその日の様子や、トイレトレーニングのことなどを伝えるように心掛けている。また、保護者からの悩みや質問は他の担任にも伝え、共有するようにしている。
- ・日頃の子ども達の様子などお迎えの時や朝の迎え入れの時に話すなどして、コミュニケーションを取っていた。お母さんが仕事で忙しく、登園はお父さん、降園はおばあちゃんという家庭は、連絡事項が伝わりにくい。お母さんに直接話す機会があればよかったな・・・と感じた。
- ・保護者から相談があったときは、快く対応した。相談を受けたあとのケアも大切にしたい。いつでも話してもらえそうな雰囲気を作りたいと思う。クレームがなかったことは、良かった。
- ・保護者からの依頼や伝言は、自分だけでなく、他の職員にも伝えるようにした。

- ・保護者からの話はすぐに伝え、返答が出来るように対処することを心掛けて、行動することができたと思います。
- ・子どもの登降園時に、保護者にその日のできごとを伝えるようにした。保護者から家庭での困りごとを相談された際は、親身に他の先生と一緒に対応した。
- ・取扱いに注意の必要なことは、個室を準備するなど慎重な対応を心掛けた。
- ・日々の保育の様子を登降園時を利用して直接、話し一緒に成長を喜び合うことができた。
- ・保護者から話しかけてもらいやすい雰囲気を中心に、送迎時の短い時間でもお家での様子を聞き園での様子をお伝えするようにした。
- ・月一回以上のドキュメンテーションだけでなく、バス登園の幼児についてはこまめに連絡帳で様子を伝え、心配なく送り出してもらえよう、また相談事、話がしやすいように心がけてきた。
- ・ドキュメンテーション・連絡帳の配信で子ども達の様子を伝える様にした。
- ・保育室が二階になった為、保護者とのコミュニケーションが少し減り不安に思う事や、逆に保護者の方に不安な思いをさせてないか気になることがあった。朝の受け入れ時に、階段の下で登園を待ったり、個々の連絡帳機能で日々の様子や写真を配信したりする等した。
- ・保護者と積極的に話をする事で、家庭での様子を知ることができ、保護者の悩みや思いに寄り添い、一緒に考えていくことができたと思う。園での様子や頑張りや楽しんでいる様子など伝え、前向きに、一緒に子育てしていけるように、子どもにとっても保護者にとっても、保育者が安心できる存在になれば・・・と思う。
- ・担任ではないので、保護者の方とお話しをする機会も少なく、また多少なりともお話しをする機会の持てる保護者の方も限られているが、朝は皆さんお忙しいのでお迎えの際に子どもの姿を伝えられるように心掛けたことにより、家庭での様子を聞かせて頂けて知らなかった一面を発見することができたのが良かった。
- ・子どもの姿を伝えるという点では、分かりやすく具体例をだしながら伝えられるよう心掛けていく。また、良い点だけでなく課題となることや、どんな関わりをしているかも詳しく伝え保護者との共通理解を図り保育に努める。
- ・保護者一人一人にとって、タイムリーな関わりをすることができなかった。もっと、子ども達の中に入り保護者の中にも入っていくようにしなければと思う。

要望への対処の仕方

- ・必要な範囲で個々に話をさせてもらう時間を取るなど、要望や意見を伺いつつ、園として対応できるもの、できないものを丁寧に検討していく。
- ・保護者からの質問等は適切に対応できた。登降園時に挨拶をしたり、声をかけたりすることで保護者からの困っていることや不安などの“声”を聞くきっかけになることが多かったため、今後も積極的に声をかけていきたい。
- ・就学先となる小学校の先生との面談のため園での様子を教えて欲しいとの要望があり、その園児の様子を担当と意見を出し合いながら書類にまとめたものを保護者に渡したことで、それに沿って学校との話し合いがスムーズに進んだと言っていたので良かった。

IV 地域や自然や社会との関わり

地域・自然・人々との関わり

- ・豊が丘にはたくさんの公園あり、そのうちの何箇所か園外保育や散歩で知ることができたが、まだまだ地域の事を知らないので知っていきたい。
- ・園庭で育てている野菜や花の成長を楽しみにしている姿を見たり、芋掘り体験や育てた野菜を美味しく食べた話をたくさん子ども達から聞くことができた。
- ・今年度は散歩によく出かけたので、園の周りの自然物と存分に関わることができた。特に、春や秋の心地よい季節に散歩に行き、春の花や、秋の木の実、猫じゃらしなどを喜んで手に持って遊ぶことができた。また散歩中に、心の結さんや、近所の方からも「こんにちは～かわいいね」などたくさん声を掛けて頂き良かった。子ども達も「ばいばい！」と手を振り微笑ましかった。
- ・今年度は散歩等で地域の公園に行くことが少なかった。また、例年の地域での職場見学も見直したため、豊が丘地区との関わりは少なくなった。その分、おやつタウンのイベントの参加など新しい行事に試みもあった。
- ・団地内にあるこども園であるため、散歩に出かけるとほとんどの場合地域の方と出会うことができ、短時間ではあるが様々な人と関わる経験は子どもたちにとって良い刺激になったと思う。
- ・先日の研修で「地域の自然と合った環境作りを心掛ける」という内容があったので、もっと地域の自然についてすすんで知る機会を増やしていきたい。
- ・地域交流については中々機会がなく、今年度は地域の公園もあまり行かなかったので、機会をみつけて遊びに行くなど計画をしていきたいと思う。
- ・未就園児の会で、地域のお子さんやお家の方と触れ合う機会があるので積極的に話に行くように心がけている。
- ・地域の人々との交流があることで、子どもたちを地域全体で守っていくきっかけになると思う。
- ・探検の森で、子どもたちと自然との触れ合いを取ることで、普段あまり意識して感じる事ができない空気の流れや臭い、風の音、木々の様子や生き物の気配・・・様々な事を感じ取れる場所となった。今年度、酷暑でいけない時期も多くあったが、今後も自然と触れ合いながら、子どもたちの五感を働かせることのできるいい刺激を感じて行って欲しいと思う。
- ・今年は探検の森にもたくさん遊びに行くことで、自然に触れるきっかけ作りがたくさんできたと思う。
- ・秋には自然物を集めに近くの公園に出掛け、子どもたちと楽しむことができた。猛暑や運動会の関係から、探検の森に行く機会が作れていないため、来月からはたくさん行き、体を動かして楽しみたいと思う。
- ・冬になり、高月齢児だけであるが探検の森に遊びに行く機会を作った。しっかり整備をして頂いているので、歩きやすく0歳児クラスの子も達も十分に楽しめたので楽しかった。(中腹までしか行っていないが)
- ・散歩や遠足などで地域の人に会った時などは、挨拶することを心掛け、子どもたちにも伝え、一緒にすることを心掛けて行動することができたと思います。
- ・散歩に出かけた際は、近所の方に挨拶をしたり春なら道端にあるお花を摘んだり秋なら落ち葉などを拾ったりして、自然に触れたりした。

- ・担当するクラスの子どもは、探検の森へ今年度は行ったことがないので、山に登ったりしてもっと自然に触れさせてあげたかった。低月齢の子がこけたり転げ落ちたりすると危険を感じるため、次年度は、低月齢の子たちでも行けるように保育者間で話し合い配慮をしていきたい。
- ・豊が丘の豊かな自然を保育に取り入れ、団地内を散歩しながら季節折々の自然を楽しんだり、小学校の様子を見たりしながら楽しむことができた。
- ・地域の自然に出かけたかったが、気候のいい日でも行事で忙しくなかなか行くことができなかった。もう少しうまく時間を使えれば良かったと反省する。
- ・“おやじの会”の方々に協力して頂き、探検の森で自然に触れ合いながら安心して遊ぶことができた。探検の森やメダカ池など園の素敵な環境を利用し、子どもたちの豊かな経験や成長につなげていきたい。
- ・園外に出掛けた時や、園に読み聞かせボランティアの方が来て下さる機会に子どもたちが楽しんでいる様子が伺えた。
- ・自然との関わりについては、なかなか探検の森を楽しむ機会が少なく、探検の森用の服装を用意して下さったのに活用しきれず残念に思う。
- ・自然に囲まれ、恵まれている環境にあることに幸せを感じます。この自然を活かした保育環境を整えていきたい。
- ・地域の自然（野の花や草等を移植して）を園内ビオトープに取り入れた。
- ・子育て支援として、くまのみクラブの実施は、自園をアピールすることも意識する部分があり、そのための準備も必要で人員的に大変に感じることもあった。しかし、楽しみに参加していただいたり、相談の機会やきっかけになったりしたことがよかった。

V 研修と研究について

研修・研究への意欲・態度

- ・いろいろな考えがあるので、研修会で皆さんの話が聞け、とても勉強になりました。
- ・研修会や研究会に参加したことがないので、外部や園内で加配支援についての研修等があり、自分が参加できるなら参加したい。
- ・不適切保育の研修では、普段話す機会のない先生方の考えを知ることができ、違った立場からの視点にとっても勉強になりました。小グループでの話し合いの場が増えると良いと思います。
- ・手遊びやゲーム、制作など子ども達が楽しいと思える活動を本で調べたりインターネットで見たりして取り入れることができた。いろいろな研修に参加していきたいと思う。
- ・社会で問題になっていることをしっかり考え、参加できる研修には参加できるようにしていきたい。
- ・園内研修にて日々の保育の悩みなど、いろんな先生方からアドバイスを頂きとてもありがたく思った。日々の保育に生かすことができとても良かった。いろんな研修があると思うので、もっと積極的に参加し学びたいと思う。
- ・今年度も研修担当として、一年間研修に関わった。コロナ禍も明け、公開保育を再開することができたり育ちのストーリーを始めることができたりと新しいことに挑戦することに携わることができたが、自ら積極的に行動することができなかった。また、今年度は附属幼稚園の公開保育に参加し、初めて他の園の保育を見る機会を頂いた。もっと保育の研修に自ら参加し、保育について学んでいかないと、自分

のキャリアがよりよくなっていかないと感じた1年だった。

- ・キャリアアップ研修のオンライン研修で、他の園の保育者や支援センターの職員の方とお話する機会があり、園での取り組みや支援センターでの保護者への関わり方など様々な意見を聞くことができて良かった。今後また研修に参加した際には、積極的に意見交換していきたい。
- ・参加したい意欲はあるが、都合上なかなか研修に参加できていない。
- ・研修に参加する際には、自園での取り組みや課題、自分がどうすればよいか悩む場面等をよく理解した上で研修に参加するようにしている。また、研修で参考になったことは職員間で共有したり、実践するよう心掛けた。
- ・キャリアアップ研修を受ける機会があったが、その他についてはいつ研修が行われているのかなど知らないことも多いので、参加できる機会があれば参加したいと思う。
- ・園内研修などで子ども達の姿の読み取りについて園全体で考える時間を作れたのは、良かったと思う。
- ・研修を受けることで、日頃の保育の悩みや正しい対応の仕方などを知ることができてよかった。また自分が学んだことだけでなく他の職員が学んだことも話し合いをする機会持つことで他の職員間でも共有することができてよかった。
- ・職員会議や研修には参加できませんでしたが、議事録を見したり、保育者に聞いたりしていました。自ら保育について研修していきたい。
- ・なかなか研修に参加できないが、できる範囲で参加しキャリアアップにつなげていきたい。参加された保育者に聞いたりする。
- ・保育者それぞれに受講すべき研修があることで、1年間を通して色々な研修に参加でき、たくさんの学びができた。
- ・キャリアアップ研修など、自宅にて受講する研修は、終業後、自宅に帰ってからの時間や休日に進めていかなければならずオフの時間がもてなかった。職場にいる時間内で受講できると保育者の負担も少なくなると思う。
- ・自分自身の保育に足りないところを第三者の意見として指摘されることで考え直す場となり、ためになった。
- ・研修に参加し、とても勉強になった。また公開保育では、いろいろな先生の保育に触れることができ、学ぶことできた。今後も、研修の場に参加し、資質向上を図っていきたい。
- ・オンラインでの研修を受けることで、いろいろなことを再確認できて、とても勉強になった。日々の保育で生かしていけるよう心がけている。
- ・研修に行かせてもらえることが多かったので、他の幼稚園での取り組みを知ったり、自分にプラスになるような知識をたくさん知れてよかった。
- ・研修担当の仕事が自分に務まっているとは思わないが、会議で発言する時には事前に自分の考えをまとめるなどの準備をして臨むようにしている。
- ・日々の保育で分からないことや悩んでいることを他の担任の先生に相談したり、アドバイスをもらったりすることができる環境で働くことができています。
- ・園内研で他のクラスの様子や取り組みなどが分かり、良かったのではないと思う。困ったことに対してのクラスの取り組み（振り返り）がある事で、“その後”の様子を知れてよかった。意見を言ったら言っぱなしでないと良い。

- ・研修に参加することによって、日頃の保育に役立つことが多く、勉強になった。また、自分の保育を振り返る良い経験となった。
- ・今年度は、リモート研修を受け障害児保育について学びました。他園の先生たちとリモートで話し合い、気になる子にどう関わっていけばいいかどう対応していくべきかを意見交換する中でいろんな話を聞くことができ学びに繋がった。
- ・オンラインでの研修が増えることで以前に比べて研修が参加しやすくなった。
- ・ICT を利用することで研修の準備の時間が取られず業務内容の短縮に繋がったと感じる。
- ・外部講師を招いての園内研修をすることで客観的な意見や子どもの見方について意見をいただけた。
- ・園内での研修にも関わらず、保育の都合上、参加できる職員が少ない。
- ・園内研修では事例をみながら先生方の意見、アドバイスを聞くことができとても勉強になった。また、Web 研修は自分自身のタイミングで受講することができ、今後の保育の参考になった。
- ・園内研修では、意見が言いやすい雰囲気、良い場になっていると思う。
- ・コロナ禍で、ZOOM 研修が増えた事で、時間に縛られることなく参加できてありがたい。
- ・勤務の都合上、研修を受けることはなく、今年度はなかなか他の保育者の思いを聞く機会も無かったので、先日行われた少人数のグループに分けた園内での研修は貴重でした。しかし、職員同士で保育をカバーし合っていくには人的にギリギリなので、十分に話し合う時間が持てなかったのが残念でした。このような機会で色々な考えを知って、気付きになりました。
- ・特別支援について、専門機関に話を聞いたり、知り得た情報は担任に伝え、保育につなげられるようにしていった。いろいろ学んでいく中で、子どもの1日は園だけでも家庭だけでもないので、保育者間の連携だけでなく、園と家庭の連携の必要性も強く感じた。
- ・日々変化していく子どもたちの状況や課題など新しい情報に興味を持ち実践できるように努力していく。
- ・「幼児理解」の大切さが、育ちのストーリーを通してだんだんと職員みんなの中に浸透していているのを感じる。もう少しみんなで頑張らないと！！
- ・自己研鑽のための研修に加え、毎月の園内研修にも意欲的に取り組んだ。園内の研修については形式を変えて、他のクラスの困り感を皆で考えて発言することで、より個々の意見が聞けるようになったと思う。
- ・なかなか上司に相談できるような環境にない為、不平不満は溜まる一方に感じる。
- ・園内研修では日々の保育の悩みであったり、また、一人の子に焦点をあてて、話し合ったりして、次の保育につなげることができた。それプラス、もっと他の分野のことをみんなといろいろ話し合っていきたいと感じている。環境構成であったり、シンプルに歌や手遊び、おすすめの遊び等、出し合ったりする園内研修もやりたい。月によって内容をかえると、いいのではないかと思う。ここ何年か、あってはならない不適切保育がいろいろなところで起こっていて、それに対しての研修も増えている。子どもを第一に子ども目線の内容プラス、保育者自身の悩みや今何が大変かを出し合う、保育者目線の研修もする必要がある。先生たちとは日々の保育や子どもたちのことを常に相談し合える環境ということでもありがたい。そんな中、職員会議で先生たちが思いを出し合っても、なかなか届かず。結局、「先生たちならできる！先生たちなら大丈夫！」などと綺麗ごとで終わっていくばかり。だんだん意見や思いを言っても無駄という雰囲気になっている。現場をほとんど見にこない先生方に何が相談できるのかという思いにもなっている。これだけ、不適切保育が世間に出てきているのに、研修だけして、一番知ってほしい現場のことは、見ていない。不適切保育に限らず、現場を見るべきなのに……。相談したくても、で

きない。